

ちかひ

2009

正月号

VOL.124

浄土宗西山深草派宗務所

総本山 誓願寺

謹賀新年



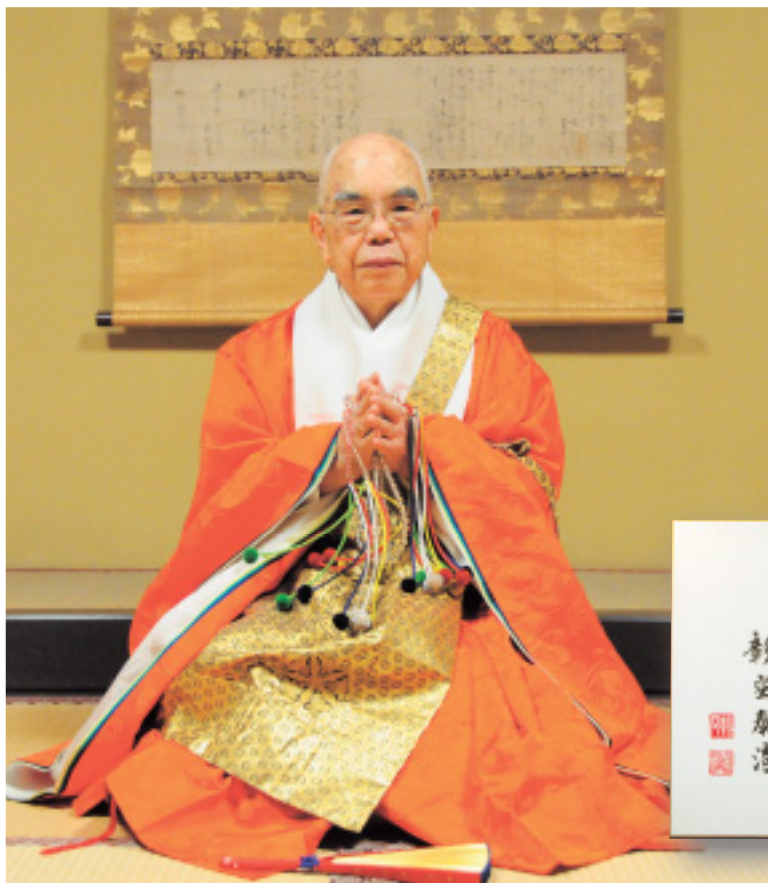
平成23年 法然上人八百回大遠忌

◆「大御忌ミニポスター②より」◆

法然上人さまのお念仏は、強いて称えよということではありません。その身そのまま、ただ「南無阿弥陀仏」とお念仏の日暮らしをしつつ仕事に、余事に励みなさいと言われていました。お念仏を称えているうちに理屈も怒りも消えて、おらかな気持ちとなり、身も心も清らかになります。「生かされている」、「ありがたい」と喜びのお念仏に変わります。阿弥陀さまの永遠のいのちに生かされている「永遠の今」を感じます。「ただ一向に念仏」の生活こそが、私たちの全身を生かす力となり、そこから開けてくる世界・見えてくる世界があります。

◆ 目次 ◆

- 新春を迎えて
- 誓願寺縁起物語(第十五話)
- 慈光(第十一回)
- まんだら絵解き **28**
- インド **ドタバタ** 夫婦道中記 **18**
- 総本山誓願寺だより
- 何でも“お寺探偵団” Vol.22 桂岩寺



新春を迎えて

浄土宗西山深草派管長
総本山誓願寺 法主 井ノ口 泰淳

明けましておめでとうございます。

皆様方、それぞれに御機嫌よろしう新年をお迎えのことと、衷心よりお喜び申し上げます。

来る平成二十三年四月、総本山誓願寺において厳修されます元祖法然上人八百回大遠忌法要まで、二ヶ年余となりました。派内各教区に於いてはそれぞれにお待ち受け法要が計画されつゝあります。昨秋十一月にはその第一回として京都市法雲寺においてお待ち受け法要が修行されました。私も参列し元祖大師の御徳を報謝し、有難いことと感激いたしました。

法然上人はお弟子達や教えを乞う人々に対して数多くの手紙をお残しになっています。その中でも特に広く読まれていますのが「黒田の聖人へつかわす御消息」（二紙小消息）であります。その末文に「か

の佛の御徳を頼みてもなほ頼むべきは乃至十念の詞、信じても猶ほ信すべきは必得往生の文也。」

（「かの佛さまの御徳を仰ぎ、一遍の念佛でも、数多くの念佛でも、極樂に往生できると仰せられた阿弥陀さまのお言葉にすがり、念佛する人は必ず極樂に往生できるとお説きになったご文章を心して信じなくてはなりません。」とお示しになっています。「乃至十念」の文は無量寿經に説かれます阿弥陀佛の第十八願の願文中の一句であります。年頭に当り、皆様方にそのわけがらをよくよく考えいたぐきたく一筆認めました。

わが西山深草派有縁の方々の一層の御精進を願っております。

平成二十一年 新春

総本山誓願寺 第二百二世

彰空泰淳 識

※井ノ口法主御染筆の色紙を抽選で1名の方に差し上げます。詳しくは7ページをご覧ください。

誓願寺縁起物語【第十五話】小島英裕



平安時代の末、法然上人が浄土宗をお開きになると、当時の住職、蔵俊僧都は、上人に深く帰依しました。もともと三論宗だった誓願寺は、それ以降、浄土宗となりました。

嘉禎二年（一二三六）の春、当時の摂政、九条道家公は、誓願寺において西山派祖證空上人を導師として七日間の仏事を営み、毎日お説教を聴聞されました。

證空上人はその中で「誓願寺の本尊阿弥陀如来の頭頂部に、本来すべての仏にあるべき赤い肉髻の相が無いことは、当麻曼陀羅の中央の本尊と同じです。より私たちの近くにおいて下さる慈悲深さを表わすお姿です」とお話され、聴衆は歓喜の涙を流しました。

その夜、證空上人のお弟子、聖達法師は、多くの人々と一緒に誓願寺本堂に籠り、仏前で心静かにお念仏を称えていました。

ふと気が付くと、参詣者の中に人目を引く二人の老尼が、親しうに語り合っています。聖達法師は不思議に思い、聞き耳を立てていました。

一人の尼僧が、「今日のお説教は本当に有り難く思いました」と話すと、もう一人は「昔、私が当麻寺で浄土曼陀羅を感得した時、阿弥陀仏が女性の姿となって絵相を一つ一つお話しくださいました。今日の證空上人のお説教は、それとまったく同じでした。また曼陀羅を織った織女は、観音さまが形を変えられた姿です。この誓願寺本尊を作られた春日大明神や、證空

上人も、みな観音さまの化身です。なんと有り難いことでしょう」と、当麻曼陀羅の由来を延々と語りました。

そして、ようやく夜が明ける頃、

二人の尼僧は本尊に礼拝し、近くの人に別れを告げ、本堂から出て行きました。

聖達法師は、内陣より走り寄り、「お二人はこのどなたですか？」と問いかけました。すると一人は「青蓮」、もう一人は「專意」と答えて、西門の方へと立ち去りました。「青蓮」とは、当麻曼陀羅の発願者である中将姫の別名、「專意」は和泉式部の法名です。はるか昔に当麻寺と誓願寺でそれぞれ往生された二人の女性が、今、目の前にいらつしやったのです。

聖達法師は驚いて二人の跡を追いかけてましたが、西の空、霞とともにその姿を見失ってしまいました。実に不思議なことでした。



尼僧たちを追いかける聖達法師

慈光 11

「慈光」。万物を育成し世に恵みを与える光。大慈悲の光明。阿弥陀さまの分け隔てのない暖かい優しい光。私たちはこの光を頂き、生かさせていただいております。慈光に照らされた私たちの生活を今一度考えてはどうでしょうか？鈴木皓道先生のお寺岡崎市本宿町「慈光院」より拝しました。

御利益とは

檀家の「ぬい婆さん」は九十歳

で篤信な念佛者でした。過去に

暗い思い出があるのに、瞬時

も見せぬ生活は見事な人柄でした。

常々「家の者に余り迷惑をかけ

ぬように、この世を去りたい。」

と口癖のように呟いていました。

あるとき、その人が事もあろ

うに縁側に敷いてあった毛布と

共に庭へ滑り落ちたのです。

さー大変「アーとうとうやつ

てしまった。」その痛さで暫く腰

が上がらない。「困ったなあ、あ

れ程注意していたのに…」

立ち上がろうとすると、腰が

上がったのです。

「あーよかった。」その足で仏壇に向かつて

「佛さま、お護り下さって有難う

さま」

御先徳のお言葉に

「如来を信ずる人は、如来のお守

りに預かる」と文字通りの御利

益です。

御利益とは二つの意が適合し

ているのです。

その一、理益＝尊い佛より人

間の美しい心と大切な命を頂い

ている事実。

その二、事益＝その佛さまを

敬つて生活をする自然に大難

を小難に、小難を無難にと、災い

を軽く受けとめられる事。

理益と事益を合わせて御利益

と申し、「ぬい婆さん」こそ、正に御利益を頂くにふさわしい人と信じます。法然さまは

『昔も今も佛縁の浅き人は

少しばかりの苦しみも佛の

思し召しが無いと思つて佛

を恨む人があるが、自分の

心を恥じなさい。』

とお示し下さっております。

このお言葉を心に頂く時、目

の前の些事に心を奪われる我々

は恥ずかしい限りです。

そんな時、こんな私でも佛の

大きな恵みを頂いているのだと、

思い直す「心のゆとり」が欲しい

です。これこそ御利益と言うの

です。

布教講習所 所長 鈴木 皓道
慈光院 住職



玄義分「虚空会 普賢菩薩」(見取図46)



玄義分「虚空会 文殊菩薩」(見取図47)

阿弥陀さま
とお釈迦さま
が力を合わせて、
生きとし生け
るもの全てが
極楽浄土に生
まれるよう、お
計らい下さっ
ているのです。

味します。

い」という、阿弥陀さまの願い
を、お釈迦さまがこの世でお
説き広め下さっている事を意

まんだら 絵解き

28

文・まんだら同好会
絵・下 千映子

極楽浄土には、阿弥陀さま
の説法を聴こうとたくさん
の仏さまがお見えになっ
ています。その中でも阿弥陀さ
まの左右にいらっしゃる観
音さま・勢至さまは有名です
が、その仏さま以外にも、私
たちがよく知っている仏さ

まがいらっしゃいます。それ
がこの絵の普賢さま・文殊さ
まであります。「三人寄れば文
殊の知恵」でお馴染みですが、
いつもはお釈迦さまの左右に
いらっしゃる仏さまなのです。
普賢さまは六本牙の白象に乗
って、また文殊さまは獅子に
乗って阿弥陀さまの説法を聴
きに來ているのです。
これは、「全ての人を救いた

極楽のようす
「空中の普賢さま・文殊さま」
ふげん
もんじゅ

12

◆当麻まんだら見取図◆

11	47	45			46	12
10		44	43			13
9						14
8						15
7	41				42	16
6						17
5	40					18
4						19
3	39	35	37			20
2			36			21
1	38	34				22
						23
						24
33	32	31	30	29	28	27
					26	25

序分義 散善義 定善義



静かな世界遺産の村

小さなカジュラホー村に千年前には八十五ヶ寺もヒンドゥー寺院があったそうで、今では二十二ヶ寺しかないそうだ。インドではヒンドゥー教徒が八割以上なのでその寺院数は数え切れない程あるのに、何故この小さな村の寺院群が世界遺産なのか、それはこの国で他には類を見ない寺院が残っているからなのである。それは、「性」を包み隠さずに表現した彫刻である。リアルでエロティックな彫刻が、寺院の四つの壁面に所狭しと刻まれている、デジタルカメラに沢山写してきた僕も、「これは直接見てきて下さい。」としか言い様がないのだ。流暢な日本語で話すホテルの社長の説明の所々で、日本の駄洒落が余りにも古過ぎて、無理に笑わざるを得なかったのが思ひ起こされる。

他の寺院群を車で案内してもらった後は、お決まりコースで、社長の友達達の豪華な土産物屋に連れて行かれ

た。少しかさばると思ったのだが、

チークからワン材でできた仏陀釈尊の彫刻が、穏やかな表情をしているのに僕たち二人は気に入って、それと吉良町のお寺で留守番をしている娘に何か土産をと、そこそこ上等なルビーの指輪を買ってしまったのだ。

木彫の仏陀は一六五ドル(約一八、〇〇〇円)、指輪は四四〇ドル(約四八、〇〇〇円)と、かなり奮発してしまった。額が額だけに、現金で払うにはこの先が心配だったのでキャッシュカードを使った。その後、銀行に寄ってもらいトラヴェラーズ・チェック一〇〇ドルを四、七六五ルピーに換金し、午前の行程を終えホテルに帰った。

日差しの強い午後は部屋で少し休んだ後、ホテルの前にある小さな広場を挟んだ向かい側には、小さな店が建ち並んでいて、パルシユ君に誘われてそこへお茶

を飲みに出かけた。店の前の木陰で

チャイを飲みながら色々な会話をした。彼はガツシリとした体格の割に穏やかで物静かな好青年だった。日本語は社長ほどではないが普通の会話は大体できるので、どうやって勉強したかを尋ねたら、社長や日本人客の会話から学んだそうである。

その場はパルシユ君がおごってくれたのでありがたく受け入れ、そのお礼に夜はホテルの屋上で盛大(?)に飲もうと約束をした。アルコールの好きな者同士だと国籍を問わず簡単に事は決まるものと改めて感じた次第である。



— ヒンドゥー寺院の彫刻(カジュラホーにて) —

総本山誓願寺だより

法話集『法然さまからのお手紙とお歌』出版のご案内

この度、元祖法然上人八百回大遠忌の記念出版として浄土宗西山深草派布教師会から法話集『法然さまからのお手紙とお歌』が発刊されました。

この本には、法然上人のお歌とお手紙「一紙小消息」が取り上げられております。お手紙やお歌は上人の念仏の教義がよりやさしいお言葉で述べられています。それは難解な用語を用いず、僅かな文字の中に上人の心情が吐露されたものであり、まさに珠玉のお言葉といえましょう。

迷走する現代だからこそ読んで頂きたい、心に届く法然上人の「やさらぎ」のお言葉でございます。



「定価1000円(税込み)」

お求め方法：総本山誓願寺（送料別途）、もしくは檀那寺までご連絡下さい。

詳細、お問い合わせは

電話 〇七五―二二―〇九五八
FAX 〇七五―二二―〇一九
E-mail seiganji@skyblue.ocn.ne.jp

までお願い致します。



おもな行事予定

- | | |
|----|---|
| 一月 | ●十五日(木)
六阿弥陀功德日
●二十四日(土)
法然上人追慕念仏行脚 |
| 二月 | ●三日(火)
節分会
●八日(日)
六阿弥陀功德日 |
| 三月 | ●十四日(土)
善導忌
六阿弥陀功德日
●十七日(火)〜二十三日(月)
春彼岸 |
| 四月 | ●十五日(水)
六阿弥陀功德日
●二十三日(木)〜二十五日(土)
御忌会 |
| 五月 | ●十八日(月)
六阿弥陀功德日 |
| 六月 | ●和泉式部忌(日時未定)
●十九日(金)
六阿弥陀功德日 |
| 七月 | ●十四日(火)
六阿弥陀功德日 |

クイズコーナー

【問題】

法然上人が黒田の聖人へ出されたお手紙の名前は何と言うでしょう？
(漢字3文字)

一紙〇〇〇

官製ハガキに答えて、郵便番号、住所、氏名、菩提寺(だんな寺)、感想や質問を必ず書いて送ってください。今回は管長猥下御染筆の色紙を一名、桂岩寺さまより「天田観音携帯ストラップ」を五名、総本山誓願寺より本山謹製線香を五名、『法然さまからのお手紙とお歌』の本を五名の方に、合計十六名に抽選にて差し上げます。ご応募お待ちしております。

【宛先】千四四三三三

岡崎市藤川町字中町南十五番地
稱名寺内 ちかい編集係

【締切】

一月三十日
(消印有効)

答え〇〇〇
郵便番号
住所
氏名
菩提寺(だんな寺)
感想・質問等

ちかい 第124号

発行日 平成二十一年一月一日
発行所 浄土宗西山深草派
総本山誓願寺
京都市中京区新京極桜之町四五三番地
電話 (〇七五) 二二―〇九五八
FAX (〇七五) 二二―〇一九
E-mail seiganji@skyblue.ocn.ne.jp

何でもお寺探偵団 桂岩寺

Vol. 22

今回は、愛知県西尾市上矢田町の「^{ことうざん}虎洞山 ^{りゅうがいん}龍臥院 桂岩寺」を訪れました。

プロフィール紹介

^{くろやなぎ}畔柳 ^{しょうりん}正倫 師 (桂岩寺 第32世住職)

昭和35年生まれ。48歳。佛敎大学卒業。現在、式衆会会長の任にあり、本派法式の維持・研鑽に尽力されておられます。



Q1 お寺の由来を教えてください。

桂岩寺は、南北朝時代、照瑗光山慧珉上人が当地に立ち寄られた際、領主戸ヶ崎次郎義宗卿が上人に厚く帰依し、44石の莊園を寄進されました。さらに、永く上人を当地に留めるべく、正平5年(1350)3月に本堂庫裡等を新築落成して菩提寺と定めたことに始まります。

開山となられた慧珉上人は、終生当寺で教化に励まれ、応永5年(1398)正月14日、81才で遷化されました。

もとは、「慶巖寺」と名乗っていましたが、慶長7年(1602)、徳川家康公より寺領35石9斗を賜り、それ以来、寺号を「桂岩寺」と改められました。『古今万宝雑記』によりますと「分かりやすいように」と「簡略化」のためと記されております。

Q2 「矢田観音さま」について教えてください

当地では古くより「厄除けの観音さま」「災いよけの観音さま」と、たくさんの人々の信仰を集めておられる「矢田観音さま」が、境内西北、本堂の真前にある観音堂に鎮座されておられます。

【交通】

名古屋鉄道「西尾」駅より、刈宿行きバス「上矢田南」下車、徒歩3分
または、タクシー15分

【主な行事】

- 3月 第2日曜日 御忌会
- 4月17日 矢田観音大祭
- 8月10日 盆施餓鬼
- 8月15日 半僧坊祭(町内関係行事 夏病防止祈願)
- 9月20日 秋彼岸会 ●11月中旬 薬師会

【お問い合わせ】 桂岩寺

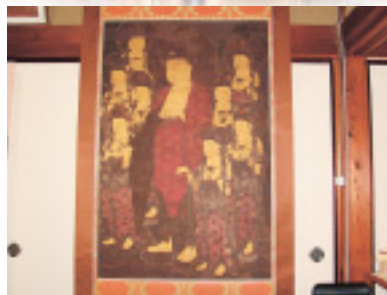
〒444-0313 愛知県西尾市上矢田町寺前22番地
TEL 0563-59-8196

当山第15世、剛翁上人の時代に観音堂を建立し、三十三観音を勧請してお祀りしたのが始まりと記録に残っております。

「伊勢湾台風」や「三河大地震」の際にも、お堂・仏像ともにびくともしなかった事から、その霊験のあらたかさを再認識されております。

Q3 お寺の宝物は何ですか？

文化財としては、当山創建時の作とされる「磬(けい)」がございます。「磬」とは仏敎儀式において合図等のために打たれる仏具です。銅製のものです。個性的な文様が特徴です。また、世界的にも希少価値・芸術的価値の高い高麗仏画の特色を示す、「阿弥陀八大菩薩像」が蔵されております。臨終時に、八大菩薩とともに念仏の衆生を極楽へお迎え下さる阿弥陀さまの様子を描いた掛け軸です。



◀ 阿弥陀八大菩薩像



◀ 晋山式「開門」の儀

Q4 「ちかい」読者に一言お願いします。

去る平成20年10月26日に私は晋山し住職となりました。その際、檀信徒の皆さま始め、地域・近隣寺院の方々の献身的なご奉仕に深い感銘を受け、有り難い佛縁を痛感しております。開山上人様が、偶々当地に立ち寄り、佛縁によって終生この地で教化に励まれた姿を鑑み、私もこの生涯を賭して、檀信徒・地域の皆様のご恩に報いるべく精進する所存であります。

Q5 「ちかい」読者に何かいただけませんか？

矢田観音携帯ストラップを五名さまに差し上げます。



◀ 西尾市指定文化財 桂岩寺の磬



◀ 極彩色に荘厳された内陣



◀ 本堂